

▼帝国図書館初代館長で図書館の父と呼ばれる田中稲城翁の胸像を寄贈(中央図書館)



日本の電気の父と呼ばれる藤岡市助博士をはじめ、岩国にゆかりのある優れた先人たちに光を当て、講演会などで市民に広く紹介する活動を続けているのは立志の碑建立委員会代表の佐古利南さんです。



子供たちの人生の

道しるべとして

と言います。「授業の準備に追われ教科書を読み上げるだけの授業となり、生徒たちは飽きて寝てしまっていた」
 なんとかして生徒たちに授業への興味を持ってもらおうと考えたのが、身近な郷土の偉人を授業の教材で使うことでした。すると退屈そうだった生徒たちの目の輝きが変わっていき、寝る子はいなくなつたそうです。

このようなことから佐古さんは、岩国にゆかりのある優れた功績のある人を調べるようになり、歴史に埋もれてしまった先人たちを表舞台に出す活動を始めていきました。

Vol.92

佐古 ^{としなみ}利南さん
 (海士路町在住)

立志の碑建立委員会代表。郷土の偉人の言葉を刻んだ石碑を設置してきたほか、岩国ゆかりの先人にまつわる講演などで各地を回る。前岩国市教育委員会教育委員長。

なく生きるため、自分らしい夢を持つこと」と感じた佐古さんは、岩国ゆかりの先人の言葉や生き方を子供たちに伝えることがその助けになるのではないかと考えました。そこで始めたのが石碑に先人の言葉を刻んで設置する「立志の碑」と名付けた取り組みで、人生に悩む子供たちの生き方のヒントになることを願ってのことでした。

「子供たちが新しい自分を発見する旅に出る時、目標とするモデルがないと道に迷ってしまう。子供たちに岩国には素晴らしい先人がたくさんいたことを伝え、壁を乗り越えてきた先人の後に続いてもらいたい」と佐古さんは言います。

「私の夢は偉人館のようなものが岩国の地にできること。そうすれば、優れた先人も市民になじみの存在となり、子供たちの人生の道しるべとなる」とこやかに語ってくれました。



▲岩国ゆかりの先人について執筆するなど精力的に活動を行う



▲藤岡市助博士の言葉が刻まれた石碑(横山・白山比咩神社)